

# 提 言 書

「『未知への挑戦』とくしま行動計画」  
の評価結果について



令和3年11月

県政運営評価戦略会議

## は じ め に

県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）では、県政運営指針である「『未知への挑戦』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）について、主要施策ごとの進捗状況の評価等を実施した。

今年度は、令和元年度に策定された行動計画の2年目の評価として、「令和2年度を取組及び成果」を基礎としつつ、会議における委員間の協議の結果も踏まえ、総合的な評価を行った。

また、とくしま目安箱に寄せられた「県民からの意見・提言」の中から、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として9件を採択した。

ここに、評価結果等を「提言書」として取りまとめたので、徳島県総合計画審議会において速やかに御協議いただき、行動計画の改善見直し、新たな施策展開等に御活用いただきたい。

令和3年11月8日

県政運営評価戦略会議  
会 長 石田 和之

# 目 次

	ページ
I 行動計画の評価について .....	1
1 評価方法について .....	1
(1) 評価の対象 .....	1
(2) 判定・評価の単位 .....	1
(3) 判定・評価の基準及び手順 .....	1
(4) 戦略会議の開催状況 .....	1
2 評価結果について .....	2
(1) 総括 .....	2
(2) 本年度評価における新型コロナウイルス感染症の影響について .....	4
(3) ターゲットごとの意見 .....	5
(4) 総括的, 総合的な意見 .....	1 2
(5) 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』への反映 .....	1 3
II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について .....	1 4
戦略会議委員名簿 .....	1 6

(行動計画評価別冊) 判定結果, 評価結果, 新型コロナ影響・対応状況及び評価シート

## I 行動計画の評価について

### 1 評価方法について

昨年度に引き続き、評価基準を客観化し、計画改善見直しに向けた「委員からの提言」に重きを置く評価方法とした。

なお、今回の評価対象である令和2年度の目標には、新型コロナウイルス感染症の影響が反映されていないことから、各施策の評価にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業について、その影響や県の対応状況を踏まえた上で、委員から意見を募った。

#### (1) 評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（91施策）の「令和2年度の実施及び成果」を評価の対象とした。

#### (2) 判定・評価の単位

- ① 判定  
主要事業（622事業）を判定単位とした。
- ② 評価  
主要施策（91施策）を評価単位とした。

#### (3) 判定・評価の基準及び手順

- ① 判定  
担当部局があらかじめ作成した評価シートを基に、「数値目標」の達成率を基礎として、「主要事業」の達成率を算出し、次の区分のとおり、A、B又はCの3段階で、客観的、機械的に判定した。

主要事業ごとの「判定」区分		
A	B	C
主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上	主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満

- ② 評価  
判定結果から算出した評価案を基に、会議における委員協議の結果を踏まえ、「順調」、「要注視」又は「要改善」の3段階で評価した。

主要施策ごとの「評価」区分		
順調	要注視	要改善
主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上	主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満
委員の「評価に対する意見」、「改善見直しにつながる意見」、「新型コロナの影響や新型コロナへの対応状況に関する意見」を加味		

#### (4) 戦略会議の開催状況

第1回会議は8月16日（月）に開催、第2回及び第3回会議は8月20日（金）から9月6日（月）までの期間で書面会議により実施、第4回会議は11月8日（月）に開催した。

## 2 評価結果について

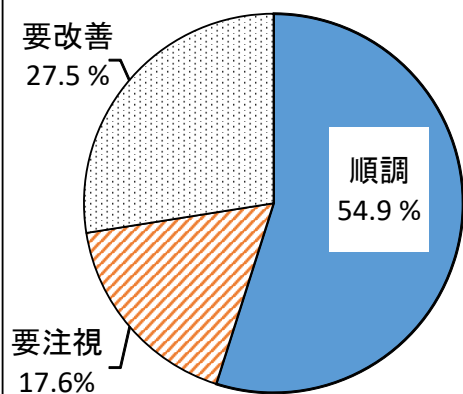
### (1) 総括

今回の評価結果は、次の表－1のとおり、  
 「順調」と評価したもの 50施策 (54.9%)  
 「要注視」と評価したもの 16施策 (17.6%)  
 「要改善」と評価したもの 25施策 (27.5%) となった。

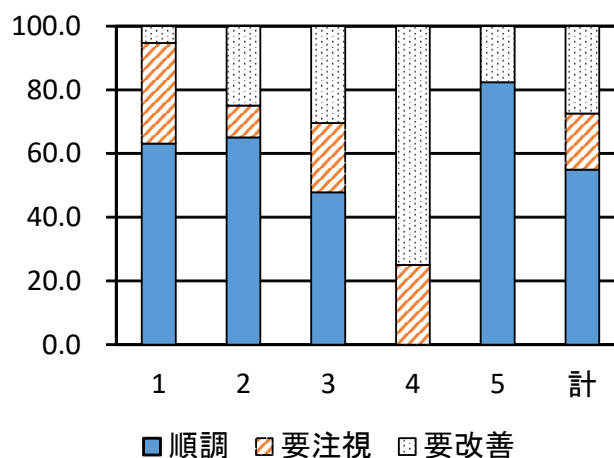
表－1 主要施策の評価結果

ターゲット	評価区分						主要 施策数
	順調 (%)		要注視 (%)		要改善 (%)		
1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	12	63.1	6	31.6	1	5.3	19
2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装	13	65.0	2	10.0	5	25.0	20
3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装	11	47.8	5	21.8	7	30.4	23
4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装	0	0.0	3	25.0	9	75.0	12
5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装	14	82.4	0	0.0	3	17.6	17
計	50	54.9	16	17.6	25	27.5	91
参考 R2年度の評価結果	78	85.7	9	9.9	4	4.4	91

図－1 評価状況(全体)



図－2 評価状況(ターゲット別)



表－２ 評価の基礎となる主要事業の判定結果

ターゲット	判定区分								主要事業数
	A (%)		B (%)		C (%)		判定外 (※) (%)		
1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	80	58.8	10	7.3	19	14.0	27	19.9	136
2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装	89	54.6	3	1.9	17	10.4	54	33.1	163
3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装	96	56.5	11	6.5	29	17.0	34	20.0	170
4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装	14	30.4	3	6.5	20	43.5	9	19.6	46
5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装	66	61.7	2	1.8	5	4.7	34	31.8	107
計	345	55.5	29	4.6	90	14.5	158	25.4	622
参考 R2年度の評価結果	391	64.5	23	3.8	30	5.0	162	26.7	606

※ 判定外とは、主要事業ではあるが数値目標の設定が適さないものや、数値目標はあるがその実績が判明していないもの等である。このような事業については、その取組状況の評価の参考としている。

表－３ 本年度評価における新型コロナウイルス感染症の影響

ターゲット	影響の有無 評価区分								主要施策数
	影響あり 順調 (%)		影響あり 要注視 (%)		影響あり 要改善 (%)		影響なし (%)		
1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	10	52.6	6	31.6	1	5.3	2	10.5	19
2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装	6	30.0	2	10.0	5	25.0	7	35.0	20
3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装	10	43.5	5	21.7	7	30.4	1	4.4	23
4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装	0	0.0	3	25.0	9	75.0	0	0.0	12
5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装	7	41.2	0	0.0	3	17.6	7	41.2	17
計	33	36.2	16	17.6	25	27.5	17	18.7	91

## (2) 本年度評価における新型コロナウイルス感染症の影響について

本年度の評価対象である令和2年度の目標については、全91施策中8割を超える74施策が新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと報告されているが、県の担当部局においては、目標達成に向け、オンラインをはじめとする「ニューノーマル」の手法を取り入れるなど、創意工夫の努力が見られた。

具体的な対応の内容については、別冊「令和2年度実施事業における『新型コロナの影響』及び『新型コロナへの対応状況』一覧」にとりまとめている。

その結果、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた74施策中、48.6%にあたる36施策が、前年度から評価区分を引き下げるといふ厳しい状況において(※)、25施策が「要改善」、16施策が「要注視」となったものの、半数近い33施策が「順調」となった。

ターゲット別に新型コロナウイルス感染症の影響をみると、表-3のとおり、ターゲット1では、大部分の施策が影響を大きく受けているものの、オンラインなどを活用して目標達成した事例も見られ、「要改善」となった施策数は、1施策と一定の評価はできる。

ターゲット2及びターゲット5は、影響を受けた施策が他のターゲットと比較して少なく、「要改善」となった施策数も、それぞれ5施策、3施策と少ない結果となっている。

ターゲット3及びターゲット4では、大人数の集客イベントやインバウンド施策など、大部分の施策が影響を大きく受けており、「要改善」となった施策数も、それぞれ7施策、9施策と多い結果となっている。

本年度の評価においては、以上のような新型コロナウイルス感染症の影響及び県の対応状況を踏まえた上で、委員から今後の計画の推進や見直しに向けた意見があった。

個別意見は後述のとおりであるが、コロナ禍における県の事業実施への対応を評価する意見がある一方で、アフターコロナを見据えた抜本的な施策転換や新たな価値観での事業見直しを求める意見が見られた。

(※) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた施策のうち、前年度から評価が下がった施策の状況

	影響を受けた主要施策数				
		評価が下がった主要施策数			
		順調 →要注視	順調 →要改善	要注視 →要改善	
ターゲット1	17	5	4	0	1
ターゲット2	13	6	2	3	1
ターゲット3	22	11	4	6	1
ターゲット4	12	11	3	7	1
ターゲット5	10	3	0	2	1
計	74	36	13	18	5
		48.6%	17.6%	24.3%	6.7%

### (3) ターゲットごとの意見

委員から、5つのターゲットごとに、次のような意見が出された。行動計画の改善見直しに際し、十分に参酌していただきたい。

#### **ターゲット1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装**

- ア 人口の流入・流出については、交流人口や関係人口と深い関連性があることが、研究としても定量的に明らかになっているので、観光客を増やすことや地域を活性化することを切り離して考えるのではなく、しっかりと部局で連携をして事業を進めてもらいたい。
- イ 移住者相談件数について、移住相談のうち、どれくらいの方が実際移住しているのかというような分析に力を入れてもらいたい。  
また、徳島に移住してきた方がなぜ徳島に来てくれたかという点だけでなく、他県に移住した方がなぜ徳島以外を選んだのかという点もわかれば、そこから、いろいろなアプローチをかけることができる。今後、AIなどを活用して、そういったデータをできる限り集めてもらいたい。
- ウ 徳島ファンを掘り起こし、マッチングするための「TOKUSHIMA-REN」について、登録者数を増やすには、登録した場合のメリットも必要である。
- エ 未来ある農山漁村づくりに向けたビジョンについて、大事なのはビジョンを作るプロセスである。単にその作成地区数を目標数値として表していくより、そのプロセスでどのような活動をしたか、また、それに関わる人の人数、ビジョンを策定するための体制をどのように整えたかなどを示してほしい。
- オ 地方では移住者が住まいを探しても、老朽化が進んでおり、すぐに住めない空き家が多い。令和元年度から森林環境譲与税が各市町村で始まっているが、こういった制度を使って空き家の改修ができないか。県産材や地元の材料を使うことで木材の利用にもつながってくると考える。
- カ 「移住・就労・起業・事業承継パッケージ」について、東京の若者の中には、お金を貯めるために東京で働き、10年、20年後、移住して起業しようと大学時代から考えている人がいる。そういった人をターゲットに、早い段階から、移住先として徳島県に目を向けてもらえるような施策が必要である。
- キ スマート農業を展開していく上で、IoT、AIの活用、無人トラクターの使用など、お金がかかることが予想されるので、特に、これから農業をやるという若い人たちに向けて、資金面の援助を打っていく施策をお願いしたい。
- ク 関係人口という発想からすると、県民一人一人にも、移住には至らないまでも地域と多様に関わって、その力や思いを地域活性化に役立てる地域外の人材、いわゆる関係する人脈というものがあると思うので、県民に「徳島活性化営業マン」として情報発信に協力してもらえるような施策ができないか検討してもらいたい。



- ケ クラウドファンディング型ふるさと納税について、昨年度のふるさと納税は、巣ごもり需要が高まり、全国の寄付額は過去最高だった中、徳島県は最下位であった。ふるさと納税は、徳島ファン拡大という意味でも効果的だと思うので、頑張ってもらいたい。
- コ 阿波おどりの魅力は、踊りを見る楽しさと、一緒に踊る楽しみの大きく二つがある。今後、オンラインで阿波おどりの魅力を発信する場合には、踊りのすばらしさを紹介するだけではなく、国内外の参加者が、踊りがうまくない人も含め、みんなで一緒に楽しく踊れるような、参加型のコンテンツを企画してもらいたい。
- サ 徳島の県南はサーフィンのメッカであり、また、鳴門にはスケートボードパークがあるので、こういった若い人たちがやるような、特にオリンピック等で注目を浴びてきたスポーツを徳島で展開していく施策を是非お願いしたい。
- シ 公共交通ネットワークの形成について、特に過疎地においては、新しい形で計画を策定し、それを実際にうまく展開していくのは、なかなか難しい問題である。県としても、しっかりとバックアップをしてもらいたい。
- ス 高齢者の人材育成や保育現場での活用について、そもそも就労してもらえない保育士が少ないのではないかと、さらには、待遇が自分に合わなくて成り手がいないのではないかと、また、なぜ定年退職した保育士さんが再度現場に戻ってくれないのかなど、様々な要因があると思われるので、その要因を掘り下げるといっても含めて、市町村や関係機関との連携を図っていただきたい。
- セ 健康寿命について、徳島県は他県に比べて健康寿命が短い方なので、健康寿命の延伸というよりも、全国の中でも健康寿命が更に長くなるような県を目指すといった方向で施策を考えていただきたい。
- ソ 学校給食に地場産物を利用する割合について、品目数としては全国標準よりも多く使っており評価できるが、例えば、野菜の量が少ないメニューもあるなど、重量や体積といった食べる量も品目数と同等の割合になっているのか留意する必要がある。
- タ 子供の肥満率について、新型コロナの影響で約3か月間の休校が一因となって大きく増加したということだが、この結果から、動く、歩くといった普通の習慣を身につけておくことがいかに大事なかが、改めて見えたと思う。今後の対策の一つとしては、児童生徒に毎日体重を量って記録させ、その結果を基に個別に指導していくといったアプローチが有効ではないか。
- チ 肥満傾向の児童生徒数の増加について、新型コロナが一因ということだが、逆にコロナ禍だからこそ、外食が減って家族で過ごす時間も増えてきており、食生活の改善という面でのいい機会とも言えるので、引き続き、しっかり対策をお願いしたい。

ツ コロナ禍でいろいろな講座がオンラインで開催をされているが、高齢者にとってオンラインは使いにくい人が多いと思う。そのサポート体制についてどう取り組むのか、デジタル・デバイドの解消という観点で検討してもらいたい。

テ 人材育成について、県庁職員のレベルアップもさることながら、非常に大事なのが一般の人々のレベルアップである。今、県の取組としては、とくしまフューチャーアカデミーにおいて、将来、県の審議会等で活躍していただける人材を養成していたり、また、シルバー大学校は、学習意欲に燃えている人たちが集まり、本当に打てば響くというふうな非常に重要な役割を果たしたりしている。こういった人材がますます御活躍することを期待している。

ト チーム育児応援企業について、わかりやすく素敵なホームページがあるが、多くの人目に触れるように、ページを検索するとき、「チーム育児」というワードだけでなく、例えば「徳島県、子育て支援」といったワードでも、表示されるようにしてほしい。

また、応援企業を増やすには、応募を待つのではなく、ハローワークと連携するなどして、こちらから積極的に働き掛けるという姿勢が必要ではないか。

ナ 小児医療電話相談事業について、コロナ禍において、まず電話相談をしてから病院の診察に行くことが普通になっているように思う。そこで、電話が繋がらなかった時にどうすべきか、地域の夜間診療の当番になっている病院を探して電話する、あるいは、命に関わることであれば直接119番をするといった流れを、病院や検診の機会を活用して親に対してしっかりと周知してもらいたい。

## **ターゲット2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装**

ア 消費者庁が取り組むリスクコミュニケーター※1の養成という取組に、徳島県が積極的に取り組んでいることはとてもいいことだと思う。

「食の安全」と言っても、食べ残し対策やエシカル消費など様々な分野があるので、そういった分野について横断的に取り組んでももらいたい。

イ 鳥獣被害について、目標は達成されているが、実際の現場では、至る所で農産物が被害を受けており、作る意欲がなくなるという農家の声も聞く。全国的な問題で難しいことだとは思いますが、引き続き、被害対策を一層推進してもらいたい。

---

### ※1 リスクコミュニケーター

消費者が、正確な情報に基づき合理的な判断・消費行動ができるよう、消費者の身近な場において正確な情報を発信できる人材。(出典：消費者庁HP)

### ターゲット3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

- ア 観光については、インバウンドも国内旅行客も、地域の魅力に触れ、地域の人と触れ合う着地型観光が主流になる。着地型観光を企画、コーディネート、実践できる人材を育成し、支援する施策が必要と考える。
- イ マイナンバーカードはこれまでの行政手続だけでなく、健康保険証や運転免許証との一体化等、今後はより一層重要視されると考える。2020年代後半には免許証の切替えのタイミングもあり急速な普及が見込まれるが、現状の実績値は交付率が30%台と未だ低い。普及率100%へ向けて、国との連携も含め、取組を推進してもらいたい。
- ウ オープンデータについて、実績値も上がり、目標値もクリアされているが、今後もより一層、データ件数の増加及びその発信に取り組んでももらいたい。
- エ クリエイティブ関連企業の集積促進について、世界的に重要な事項であり、徳島でも積極的に取り組むことが望ましいが、我が国においては立ち後れが指摘されている。AI、ビッグデータ等の分野については、人の考え方の変革やそれに対するコスト分担のあり方も大きな影響をもたらしており、この構造に対する変革が必要である。
- オ 外国人ICT技術者の受入れについて、本質的に何を目的として事業を実施したかが重要であり、どのような人が参加したか、また、参加してもらえなかった人に参加してもらうには、どのような課題が存在するかを分析した上で、このまま進めるべきか、改革が必要かを判断する必要がある。参加者プラスアルファへの波及効果と県としての費用対効果について検討してもらいたい。
- カ アフターコロナを見据えた観光への取組として、県内観光に対する「とくしま応援割」は、産業・経済の活性化や閉塞的になる環境下での住民の心の開放という意味で、大きな成果をあげており、評価できる。  
一方で、感染症拡大下において、目下の課題と、アフターコロナを見据えて実施すべきものと、実施したいが後に回すものなど、いくつかの括りでどのように事業を実施していくかは明らかにすべきである。
- キ 「攻めのインバウンド誘客」について、ウィズコロナあるいはアフターコロナに向けた思い切った施策転換も必要かと思う。  
「マチ★アソビ」や「とくしまマラソン」などのイベントについては、「できない」この時期に次の大会開催に向けいろいろな提案を行ってもらいたい。このピンチの状況で、いかに時間を使うかが大事である。
- ク にし阿波への誘客推進について、外国人観光客にとっても魅力のある「古民家住宅」をはじめとした主要観光地と、世界農業遺産「傾斜地農耕システム」の体験などを組み合わせた体験・滞在プログラムにより、来訪者の滞在期間の延長を図るという取組は、まさに「炯眼」であると高く評価できる試みである。

- ケ にし阿波におけるアフターコロナを見据えた体験・滞在プログラムがとても興味深く、日本茶摘み体験と天ぷらのランチなどは、是非行ってみたい。他にも、徳島ならではの自然体験ができる企画など、アフターコロナを楽しみにしているが、料金設定やDMOとの取組など、更に具体的に進めてほしい。
- コ 四国のグリーンツーリズムを広域連携のプロジェクトとして進められるといい。四国はお遍路さんの文化でつながっているし、特異な地形地質、それに伴う生態系が充実している。また、歴史・文化や地質・生態系の調査研究の拠点があるといい。
- サ コロナ禍による飲食業界への抑制をはじめ、農産物の消費低迷の影響を受けて、特に今年の米価は、昨年より大幅に低下しており、小規模米作農家は廃業する声も聞かれる。このような農家へ、飲食業界や旅行業界等と同レベルの補償をするなど、県として対策を検討してもらいたい。
- シ 県産材の生産について、今後、施業現場は奥地化していき、作業効率はますます低下してくる。また、新規就業者も増えてくると、労働災害の発生原因にもなるので十分気をつけて進めていただきたい。
- ス 現在、新型コロナに端を発した外材の高騰、輸入量の減少といった、いわゆる「ウッドショック」が起きているが、この時こそ、県産材の更なる増産に向けたチャンスかと思う。
- セ ターンテーブルについて、コロナ禍で目標を全て達成しているのはすばらしいと思うが、場所がわかりにくいとの声を多く聞く。目印やPRのために、「阿波ふうど」のロゴマークが描かれた藍染の大きなのれんを店の前にかけてもらいたいと思う。
- ソ 鳴門ではコウノトリブランドのレンコンが作られているが、阿南・那賀地域も生物多様性に配慮した農業のブランド化ができるのではないかと。農の里づくりでも、生きもの豊かな里で作る、安心・安全な農作物ができると良い。
- タ スマート農業について、特に女性農業者への資金面の援助も含めて、研修、実演会等の情報発信をお願いしたい。
- チ 東京大学・京都大学の進学者数を増やすには、できれば小学校の時から、「東京大学・京都大学に行く！」という目標を持つようになる環境整備をお願いしたい。全体的に「勉強をしよう」という空気作りが重要だが、現状の高校入試では、その状況には、なかなかできないと思う。失敗してもチャンスが何度かある入試ができないか。

ツ G I G Aスクール構想<sup>※2</sup>について、新聞に端末のスペックや通信速度などに改善を求める内容の記事が高校生から投稿されていたが、この取組は、これからの学校現場にはなくてはならないものなので、この貴重な意見を真摯に受け止めていただき、早急な改善が図られるようお願いしたい。

テ 子供の多様な学習や体験活動、住民との交流活動について、休日や放課後だけではなく、例えば「地元学（徳島学）」という形で、一つの教科として、授業の中に組み込んでもらいたい。地域でどんなものが作られ、どんな企業・職業があるのかなどについて、実際に見たり、地元の方に出前授業をしてもらったりすることで、地元への愛着がわき、大学等で県外に出ても、ふるさとに帰る「徳島回帰」につながるのではないかな。

ト 障がいの有無に関わらず、みんなで学ぶというインクルーシブ教育<sup>※3</sup>の考え方は、すばらしい。これを進めるに当たっては、特別支援学級の教員を十分に配置すること、また、全ての教職員が専門知識を持つこと、さらに、保護者や地域の方などを巻き込んだ「地域とともにある学校づくり」が土台にあることが必要である。

ナ 「SDGs」について、最近メディアで取り上げられる機会が多くなったので聞いたことはあるが、何なのかわからないといった声が多い。認知度を上げるためには、どうすれば良いかが課題である。

ニ 「SDGs」の全県展開について、高校生を教える教員側が「SDGs」について理解していないという状況が散見される。どのようなことを、どのように伝えれば良いのかが分からない状況になっていることが想定されるので、教員側の「SDGs」の本質理解を進める必要がある。

#### **ターゲット4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装**

ア 「あわ文化4大モチーフ」も大切だが、その他の「獅子舞」や「だんじり」など地域における独自の伝統文化の継承にも力を入れてもらいたい。  
できれば、地域の伝統行事やイベントのときは、文化の担い手や参加者が行政・企業等で有給の休みをとれる仕組みを作してほしい。

イ eスポーツは、どんな人でも楽しめる。若者向けのイベント企画だけではなく、高齢者や障がい者の施設での普及を支援し、シニア向けのeスポーツ大会を企画するなど、徳島ならではのeスポーツの多様な展開を進められれば、国内外に発信することができる。

---

#### **※2 G I G Aスクール構想**

児童生徒1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する構想。  
GIGAとは、Global and Innovation Gateway for Allの略。

#### **※3 インクルーシブ教育**

人間の多様性の尊重等を強化し、障がい者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大程度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み。

## ターゲット5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

- ア 夏のエコスタイルとして、県職員が藍染めのシャツを着用しているが、藍の色合いやデザインを考慮しておしゃれな試作品を作り、県下の自治体職員にも紹介するなど、エコと徳島の誇る藍を組み合わせた徳島ブランドとして、もう少し大々的に提案してはどうか。
- イ ZEH<sup>※4</sup>については広く浸透しているように感じるが、補助金の申請をしても競争が厳しく受理されなかったという事例をよく聞く。予算の都合上、仕方ないが、ZEH補助金の希望者は多いので、この枠が拡充されることを期待している。
- ウ 森林所有者の世代交代により不在村者も増え、名義も昔のままで登記ができていない森林が多い。今後、売却や寄附等が難しくなるのではないかと思うので、「とくしま森林バンク」を活用し、森林所有者の責務を明確にし、森林整備を進められるような取組を、引き続きお願いしたい。
- エ ピコ水力発電は、水車等を利用して発電し、小規模水力発電として脚光を浴びている。特に、らせん型水車は落差がなくても水の流れだけで羽根が回り用水路等へ設置されている。徳島県の中山間地域には、広大な森林と豊かな水をたたえる河川や用水路が縦横にめぐる地域もあり、太陽光発電と組み合わせた地域的な電源として活用できると考える。
- オ 棚田地域振興法に基づく指定地域となると、各省庁からの支援が受けやすくなるという新しい枠組みについて、支援を受けるための協議会運営、事業の企画、マネジメントが必要不可欠である。それらをどこが、どのように担っていくのが課題だと思う。
- カ 徳島県は浄化槽の法定検査を受検しない割合が高いという声を聞いたことがある。浄化槽は、メンテナンス業者が2か月～3か月に一回の割合で水質検査やメンテナンスに回っているが、法定検査も含めて業者対応ができないものかと思っている。
- キ 「徳島県の活かしたい生態系リスト（仮称）」を作成、公表されるのは良いことだが、それらをどう守っていくのかまで検討する必要があると思う。国定公園や重要里地里山、重要文化的景観なども同様で、どこも選定だけになっているように思う。
- ク コウノトリ里親センター（仮称）について、鳴門市の大谷地区には、大谷焼の窯元や酒蔵、しょうゆ蔵、古墳など、板東地区には、ドイツ館や賀川豊彦記念館、霊山寺、大麻山登山口など、地元を象徴する歴史や文化があり、こうした資源とコウノトリ里親センター（仮称）が融合するような施設ができると良い。

---

### ※4 ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）

外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとなる住宅。（出典：資源エネルギー庁HP）

#### (4) 総括的、総合的な意見

行動計画全体に対して、次のとおり数多くの総括的、総合的な意見が出された。については、行動計画の改善見直しにおける大局的又は技術的な指針の一つとして、念頭に置いてもらいたい。

ア 新型コロナへの対応としてオンラインを活用した項目が多くあるが、オンラインで実施する場合には、受ける側のスキルも必要であり、その環境整備も重要になる。

イ 新型コロナが終わった後、どのような徳島県をつくっていくかというところは、2年前、3年前とは全く違った状況で考える必要がある。今後、10年、20年先を踏まえた上での施策に関しては、コロナ禍以前に戻せばいいという部分と、そうではなく新しい価値観や基準に基づいて作り出さないといけない部分を分けた上で、考える必要がある。

ウ 新型コロナ対策の現場で従事する全ての職員への対応として、人員配置、長時間労働、メンタルヘルス、安全衛生面などに配慮した対策をしっかりと取っていただきたい。

エ コロナ対策の中では、テレワークの推進が強調されているが、労働団体のアンケート調査によると、テレワークによって50パーセント以上が通常勤務より長時間になっており、また、時間管理をしていないテレワークが23.5パーセントあるということだった。テレワークの推進、導入を呼び掛けると同時に、長時間労働にならないように呼び掛けること、さらに多様な働き方の中で、法律を順守するということも強調されるべきではないか。

オ 全体を通して、新型コロナウイルス感染症の影響が多々あるが、計画達成のため様々な対応をしている。今後もまだ影響はあるだろうが、感染症対策を講じながら計画の推進をお願いしたい。

カ 海外からの人材確保や海外人材との交流、観光人材の育成、東大・京大合格者数、SDGs への取組、マイナンバーの普及、徳島ブランドの確立など、コロナ禍以前からの課題については、抜本的な改善を検討してもらいたい。

また、インターネットパネル展、リモートによる観光PRや各種教室・講座の実施など、コロナ禍をきっかけに新たに取組を始め、アフターコロナにおいても継続的に実施していくことで事業の効果を期待できるものについては、更なる充実を図ってもらいたい。

## (5) 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』への反映

本年度評価は、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度より悪化したものの、厳しい状況の中、創意工夫により真摯に業務に取り組まれたことについては敬意を表したい。

本年度の戦略会議は、新型コロナウイルス感染状況に対応し、第1回はWEB会議を併用、第2回及び第3回は書面会議という形式をとったところ、前述((3)、(4))のとおり、委員からは60件を超える多くの提言があった。

これらの提言の中には、コロナ禍以前からの課題に関するものもあり、長らく改善の兆しが見られないものは、この際、事業手法の大胆な見直しや、全く新たな事業への再構築など、抜本的な改善を図っていただきたい。

また、コロナ禍をきっかけに取組を始めたWEB会議等を活用したリモート型の施策等は、アフターコロナにおいても事業効果が期待できるため、単にコロナ禍の緊急避難的な措置としてではなく、更なる充実を図った上で、継続していただきたい。

今回の戦略会議の評価を通して、新型コロナウイルス感染症が県の施策に与えた影響の大きさが明らかになるとともに、改めて、県民の生活にとって県政が身近で重要なものであることを認識することとなった。

令和4年度は、行動計画の最終年度となるため、今一度、「県民目線」・「現場主義」に立ち返っていただき、進むべき方向性や、事業方法の改善点を見極めるとともに、ニューノーマル時代を見据え、全く新たな発想で、「新型コロナウイルス」はじめ、「人口減少」、「災害列島」の3つの国難打破に向けた施策展開を図っていただきたい。

戦略会議からの提言がその一助となることを願う。



## II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について

令和2年4月から令和3年3月までの間に「とくしま目安箱」に寄せられた意見・提言のうち、次の9件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

### 戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

	項目	意見・提言の内容
1	自転車王国とくしまについて	<p>和歌山県は堤防上を自転車道として整備して非常に走りやすく、途中の飲食店などに立ち寄りやすい工夫をしている。奈良県は、案内看板を随所に設置しており、非常にわかりやすい。</p> <p>徳島県も、池田まで吉野川の堤防の道を整備してくれれば、関西方面から人が来やすいと思う。</p> <p>徳島県は自然豊かで見所が多いのだから、サイクルラックの貸出しで飲食店と連動したり、自転車が走りやすい道路や案内看板を整備したりして、通年、観光客を呼べるようにしてほしい。</p>
2	起業について	<p>起業のアイデアがあるが、事務所として使用する部屋を借りるのにお金がかかる。現在、空き店舗や空き事務所がたくさん見受けられるが、これらを県庁などが借り上げて、起業する者に無償で貸与する制度があったら、有り難い。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、閉店する店や事業が多い中、新しく立ち上げていこうという起業家を応援する制度をお願いしたい。</p>
3	徳島市末広地区の開発について	<p>末広地区にある徳島県の倉庫群を開発し、人が集まれるエリアとして再整備してほしい。</p> <p>末広・沖洲周辺は、徳島南部自動車道開通で、今まで以上に広範囲からの集客が可能となる極めて将来性の高いエリアである。県としてもこれらのエリアに投資を行うことで、高速道路の開通効果を更に高めていくべきだと思う。</p>
4	テイクアウトの容器持参について	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、テイクアウトが増え、それによりごみが増えてしまうことが気になる。他市では容器を持参した方にクーポンを配っているそうなので、徳島もごみを減らすためにそのような取組を行ってほしい。お店も容器代がいらなし、自治体もごみの処理費が削減でき、環境にもいいと思う。</p>
5	工芸、芸術面に特化した街づくり、人材育成について	<p>工芸、芸術面について、次世代の人材育成として、幼少期から絵画、工作に関する教室を県全体で等しく受けることができる体制、小中学校での授業の強化、芸大を狙えるような専門性の高い学校を設立してほしい。</p> <p>また、アニメ会社やそのサテライトオフィスを誘致したり、車に乗ったまま野外で映画を見るような、アフターコロナにも対応した施設を整備したり、色々な工芸作家が発表できる場を設けたりするとういと思う。</p>

	項目	意見・提言の内容
6	ターンテーブルのマルシェについて	<p>「ターンテーブル」の「マルシェ」で新たな取組を始めたとのことだが、他の農業先進県では品質や見せ方などでしのぎを削っている。徳島県産農産物もパッケージを統一し、大手量販店の棚を同じデザインとしてみてはどうか。</p> <p>また、ターンテーブルを「阿波ふうど」デザイン情報発信基地とし、そのためにはロコミが大切なので、東京近辺在住の県出身者の会や関係団体へメール等での案内を行ってはどうか。</p>
7	プラごみゼロ宣言について	<p>県が「プラごみゼロ」宣言を発表したことは評価すべきであり、今回の宣言が環境問題全体に広がることを期待する。</p> <p>市民団体が資源循環型廃棄物処理の処理センターの設置を県に要望との報道があったが、すばらしい提案だと思う。ごみ処理施設については再処理施設と連携し、施設の熱利用により、温泉施設等を設け、県民に広く利用されてほしい。</p> <p>県は、自然が一つの財産ではないか。自然が財産となると、ごみ問題の解決は欠かせない。</p>
8	自ら考えて行動できる子供たちの育成について	<p>自ら考えて行動できる子供たちを育てるために、「小・中学生が運営する会社」を作ってほしい。</p> <p>どうやって利益を出すか、お金の流れや人との関わりの大切さ、交渉の仕方等、社会や経済の仕組みをリアルに体験することで、自ら考え動く子供たちを育成できるのではないかと。また、今学校で学んでいる勉強ももっと面白くなるのではないかと思う。</p>
9	GoToキャンペーンについて	<p>「Go To キャンペーン」制度が動きだそうとしているが、残念ながら徳島県は宿泊者数が最低の県である。実際、観光客としてカウントされている多くは帰省客だと思うので、徳島に帰省した場合に現金の補助や同窓会を開催した場合に補助など、「Go To キャンペーン」と合わせ帰省客を呼び込む施策を同時に行ってはどうか。</p>

県政運営評価戦略会議委員名簿

	氏 名	現 職 等
会 長	石田 和之	関西大学 教授
副会長	阿部 頼孝	徳島文理大学 名誉教授
委 員	伊庭 佳代	つるぎ木材加工協同組合 理事
〃	植田 美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク顧問
〃	加藤 研二	阿南工業高等専門学校 准教授
〃	近藤 明子	四国大学 准教授
〃	坂本 真理子	阿南工業高等専門学校 研究員
〃	田村 耕一	徳島大学 理事(広報・渉外担当)・副学長
〃	鳴滝 貴美子	和田島漁業協同組合女性部 部長
〃	南波 浩史	共立女子大学 教授
〃	久岡 佳代	かいふの木の家 事務局長
〃	藤原 学	(公社)徳島県労働者福祉協議会 顧問
〃	榊本 久実	税理士
〃	三木 潤子	親子ふれあい教室 みきはうす 経営